

岡 政先生 会見記（その二）

小 野 京 子



〈出石幼稚園（岡山市）にて〉

私たちは、遠い昔の大先輩に、いま、ほんとうにお会いすることができると、あれこれはりつめた思いで、案内された部屋の中へ入って行った。

「こんにちは」

めがねをかけて何か見ている方の顔が、私たちの方へ向いた。とても落ち着いた、元気そうなようだった。

こんなところから、私たちと先生との会見が始まり、私たちは話の中へとけ込んでいった。では、先生のお話を聞いてみましょう。

これは、岡先生のお話を書きとめておいた、その時のメモをもとにして、場面を再現したものです。そして、岡山弁で話さ

れたことを少し直してわかりやすいようにしたこと（以下の「」の部分）をお断わりしておきたいと思います。

〈岡先生のお話〉

☆ 砂と子ども

「砂場に、子どもとおばあさんが見えます。その子はバケツの中へ、シャモジで砂を入れては出し、入れては出していました。それを見ていたおばあさんは、

『そんなことしとるんだったら、はようもう帰ろう（岡山弁）』と子どもに声をかけました。そのおばあさんは、結果——バケツに砂が入ったこと——さえよければいい、という考え方でその子どもの砂を出し入れする活動自身が楽しい、ということ

がわかっていないんです。子どもの没頭している活動こそ、子どもの生命力であり、保育者は、子どもの何々せずにはいられなくて一生懸命な活動（あそび）を大切に助けていかななくてはなりません」

☆ 自然と子ども

「最近、一歳二カ月の子どもと一緒に、毎日近くのボーリング場へ出かけたり、朝、小学校や幼稚園へ散歩に行きます。家とは違って、広いボーリング場などへ来たとき、子どもの顔を見ると気分がぐっと変わるのわかります。こせすかない（こせせしない）、のん気で大きな人物になることを望みます。そのため、動物を愛護してみるのもいいでしょう。」

ボーリング場の帰り、夕暮れの空にお月様が出ていました。一歳二カ月の小さい子どもは、お月様を見て

『ノンノ、ノンノ』

と話しかけてくるのです。（その小さい子どもは、遠い空のお月様をどう感じているのでしょうか。私はふつと心をとらわれました）その時、とても感激してしまいました」

☆ 文明と子ども

「近ごろ、よく新聞で、親が子どもを殺す事件を読みます。（とても、いやだなあという表情をなさりながら）文明が進んで、心配ごとがふえてきてヒステリー気味になって、それに公害も発生して、また、自動車が来ると、アッ危ないとひやひやしている。こういった状況では、神経系統も弱まってしまいます。けれども、なにくそという実行力もった、少しのことに弱

らない人間。自主、自立、人が何と言おうと自分の考えでぶつかって動いてみる人間。そんなふうには保育したいものであります。そのために、根底において、子どもの生命力を伸ばしてやるのが大切なことだと思います」

☆ 友だちが好き

（「ままごと」）

A 『きゅうり下さい。なんぼですか？』

B 『五円』

A 『高い！ 帰ります』

C 『お金がないから？ ええよ』

あそびの中で、子どもはいろんなことを知っていくのです。

ボーリング場にて、一歳二カ月の子どもが、胸に赤いカニの絵のついている洋服を着た子どもと出会いました。（カニの絵

が気に入ったようでした。その二人の子どもたちは、きやあきやあと走りまわって追いかけあいを始めます。子どもたちの顔色は変わります。生き生きとってきます。子どもは、友だちをとつても欲しています。好きで好きでたまらないようです」

ここで、幼稚園の基礎を考えると、それは総合的集団的にあそぶことであり、その中から生活する力の保育を求め、活動の事実を押えていくことだと思えます。生活経験を広めることだと思えます。そして、気長に失なうことのできない強い生活の力（をめざされた先生のように）を保育していきたいと思えます。

☆ たなばたと指導案

「指導案に、たなばたあそびのねらいとして『夜空の美しさを知る』と書き、子どものおかれている現実（子どもの発達段階と環境の悪さ）を見ないで、無理にそれを教えようと頑張つても困ります。幼稚園では、保育者がたなばたの飾りを作つて竹につるす。その楽しそうなようすを子どもが見て作りたくなく、そして皆で楽しく遊んでいくことをしたいものです。（ここで、岡先生は、園長格の指導者層にわかってもらわないといけないことが、もっともっとたくさんあると、おっしゃっていた）

ねらいはいくら考えてもいいと思えます。けれども、それを直接、子どもにもつていくことはいけないと思えます。教育だからといって、大きい者が小さい者へ、外から表だつてもつていき過ぎるように思うのです。そうではなくて、まず、素直に子どもと一緒に遊ぶことが大切に思えます。そして、そのあそびの中で、保育者が一生懸命考えたり、くじけないでまたやってみようとしたりする姿が、子どもにとって大きな何ものかになるのです。各六領域は表であつて、内容ではないのです。内容は、子どもの生活、子どもの自発活動、あそびなのです」

☆ 保育者

まず、岡政先生の保母観（『岡山県保育史』一七三ページレーベル館）を引用したいと思います。

自由保育の時、子どもと遊ばないで保母室でお互いに雑談している保母は、一番悪い保母である。

自由保育の時、子どもと共に歩き回っている保母は、ややよい保母である。

自由保育の時、子どもの遊びに加わり、子どもと共に走り回っている保母は、大分よい保母である。

さらによい保母は、子どもと共に遊びながら、子どもをどのように伸ばそうかとたえず思慮をめぐらしている。

最上の保母は、自分で直接幼児を導くのでなくて、保育理念に導かれて意図的、計画的にととのえられた環境物とおして間接的に幼児を保育する。

ではお話を続けていきたいと思えます。

「子どもの伸びる力（生命力）を育てることが保育ですからいくら保育者が知っていて教えたくても、教育的惜心（おしむ心）をわかっていないといけないと思えます。（保母中心の保育ではなくて、子ども中心の保育をさしているのだと思えますが）フレール先生が幼稚園を建てたのも、子どもの自発活動を助けるためでした。子どもの生命力はあそびであります。保育は、それを助けることから始まります。外から表だつてねらいを子どもにもっていくのでなく、保育とは、子どもの生命力、あそび、自発活動を伸ばすことなのです。（このことを何度も強調された）自由保育とはいえ、ほっておいていい、というものではありません。自由のはき違えをしては困ります。

保育者は、子ども同志で生き生きとしたあそびがなされるよ

うに、じつとよく見ていて、その環境を整えてやることだと思えます。保育者が直接に子どもの遊びを教える、教えた、ではなくて、環境物（たとえば、いつもとは違った場所にあるスコープ、ゴザ、そして保母の動き）を通して、子どもに自分で夢中でやったという経験を広めてやりたいと思えます。子どもは、自分でやれたときは、顔色、目の輝きが違ってきます。岡山県倉敷市にある御国幼稚園は、園児全員（三百名）が充実した生活をしていて、ブラッとした子どもがいないから、一度見せてもらいなさい」

「從野先生（元の岡山大学教育学部附属幼稚園教頭）が、同大学同学部での講義で、環境整備のこと、ひとりひとりを大切にすることを強調されていました」と、松川さんが話をしたところ――

「あの方は、理想的な保育者だと思えます。何年も前になりますが、私が岡山大学附属幼稚園で主任をしていたとき、從野さんが実習に來ていました。そんなある日、たまたま電話を借りに來たのです。その時の電話のかけ方が、とても美しく、気持ちよかったです。私の後任はこの人だと確信して、ずっと育ててきました。とてもいいセンスをもった人でした。

保育者は、ひとりひとりを大切に作る細やかさをもって、親切で人の世話をいとわないう、よく気がきいていることが大切です。そして、私のように年をとったものより、若い美しい先生や、すもうのとれる男の先生、心の豊かな先生がたくさんふえていくことを望んでいます。

まあ、一度、保育を実際にやってみてごらん下さい。やってみるとわからんわ」

〈感想〉

最後の先生の言葉は、とても痛かった。この会見中、ずっと緊張して、一生懸命聞いていることで精一杯の自分だった。お話の中で、時代、年月の差を感じるどころか、遠い昔からのものと、今の私の学んだことと共通しているところをたくさん見つけることができた。岡先生とともにいて、約八十年間の深みや永続性を感じられ、ほんとうにはりつめた気持ちの自分だった。保母としての生活の、ひとりの人間が生きていくこと、のささは、何だったのだろうか。人間への愛、精一杯やって変化していくことだろうか。

お話している間、先生の生き生きした姿や表情をみていて、とても楽しかった。自分のことを「岡のばああ」とかおっしゃ

ったりもした。

暑い八月の夏休みに、私たちとの会見のため、岡山市のどまん中の出石幼稚園へ出かけてきてくださった。出石幼稚園の園長先生は、岡先生の大好きな岡山名物大手まんじゅうを持って来てくださった。岡先生は、何か願いごとをなさっているらしく、糖を断っていらして、好きなおまんじゅうを食べないでお家の子どもへ、と持って帰ることになった。

お話の途中で、岡先生は小さなノートに何か書いていらした。そのノートの表紙の裏の、一歳二ヵ月の子どもが初めて書いたという絵をみせてくださった。

岡山弁で話をして、大学での勉強と違って、子どもの生活に近づいたような気がして、また新しい大切なことを学び、勇気づけられました。この会見は、私にとって大変印象的なものでした。

（お茶の水女子大学大学院）